

法人名	社会福祉法人 白百合会
施設名	西川島保育園

発表者名 (職名)	玉岡 菜実 保育士	住所	横浜市旭区西川島町134-11		
発表者名 (職名)		TEL	045-373-0257	FAX	045-373-0272
発表者名 (職名)		メールアドレス	nishi-kawashima@minos.ocn.ne.jp		
		URL	https://shirayuri-nishikawashima.com/		
		定員	90名	職員数	37名

発表の概要・内容

【オオカミごっこの始まり】

私は昨年男子11名、女子8名の19名の2歳児クラスの担任をしていました。私はこのクラスを1歳児の時から担任していました。1歳児クラスの冬頃から「三匹のこぶた」の絵本が大好きで、オオカミが出てくるシーンは真剣に見ている姿が印象的でした。園庭で遊ぶ時は保育士がオオカミになりきって子どもたちを追いかける遊びを楽しんでいて2歳児クラスに進級してからも楽しんでいました。

繰り返し遊んでいくうちに保育士の声かけや子どもたちの言葉で遊びが変化し、3匹のこぶたのストーリーに沿って遊ぶ姿が出てきました。おいかけてこだった遊びから、物語をイメージしたやりとりをするようになったことに大きな成長を感じていました。

【オオカミごっこをどうやって盛り上げる？】

10月頃、子どもたちの言葉も増え保育士とのやりとりも活発になってきましたが、“友だちと一緒に楽しい！”と感じられるような活動はできないかと担任間で考えていました。そこで、ずっと楽しんでいるオオカミごっこをもっと盛り上げてみようということになりました。しかし、友だちと一緒にいるようでイメージが違う2歳児。どうしたらみんな楽しめるか考えました。そこで、子どもたちがイメージしやすいように、わら、木、レンガの家の囲いを用意し、室内でオオカミごっこをやることにしました。

いつもと違うオオカミごっこで大盛り上がり！ワクワクしている子もいれば、様子を伺う子もいました。中には、オオカミが怖くて泣いてしまう子もいました。「怖い」という思いだけで終わらせたくなかったので、どうしたら楽しいオオカミごっこになるのか？と担任同士で今日のオオカミごっこを振り返り、次はやり方を変えてみようなどと日々話し合いをしました。繰り返し遊んでいくうちに、子どもたちがオオカミ役になって遊ぶ姿もでてきました。その姿を見てすぐオオカミとぶたの被り物を作ると、はりきってなりきる子どもたち。「がおー！」と大きな声を上げたり、爪とぎのような動きをしたりとそれぞれが思うオオカミがあり、子どもたちの表現や発想がどんどん膨らみ面白さを感じました。

【友だちとの関わりや遊びが変わった！】

冬頃には、また遊びに変化が出てきて、オオカミごっこ以外に「ももたろうごっこ」や「消防士ごっこ」などを友だちと一緒に楽しむ姿が増えました。まったく同じイメージで遊んでいるわけではありませんが、友だち同士の会話も増え、笑い合う姿がたくさん見られるようになり友だちとの関わりが深まったように感じました。この活動はドキュメンテーションにして日々保護者に発信したり、懇談会ではオオカミごっこの様子を動画でお見せしたりしました。子どもたちが普段どんなふうに楽しんでいるか知ることができて良かったという言葉をいただきました。

「オオカミごっこ」を通して、友だち同士の関わりを作るきっかけになったり、表現することを楽しんだり、言葉を獲得したりと1歳児クラスの時には想像もつかなかったような姿になり、子どもたちは遊びの中で日々成長しているのだと改めて感じました。その中で、保育士も一緒に全力で楽しみ、子どもたちの言葉を見逃さず、保育に取り入れていくことを今後も大事にしていきたいと思っています。

メモ